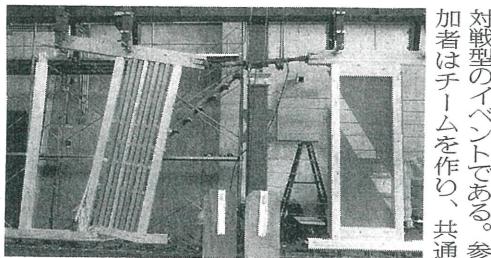


2020年 7月3日 金曜日

「技の創造」 ものづくり大学発

▷56△



参

「綱引き」この競技は、幼児から大人まで多くの人々が経験し、興奮と感動を呼び起

る。

「綱引き」の面白さを

参加者も応援する人々とワントームになれる」とが挙げら

れる。

この「綱引き」の面白さを

取り入れたイベントが、「木造壁ジャパンカップ」である。人間の代わりに2体の木造の壁(耐力壁)が「綱引き」をして、強さを競い合う

対戦型のイベントである。参

加者はチームを作り、共通

のルールの下、創意工夫した実物大(幅3尺、高さ10尺)の壁を競技会場で組み立て、足元を固定した状態で2体

に発生した兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)後、木は、本学も競技会場となり、

の学園祭のイベントとしてスケートした。ものづくり大学は、1995年1月から2001年から

金物メーカー、研究機関などからなり、学生または企業の単独チームでも混成チームでも参加できるオープン競技であつた。

先に記したように、本大会の目的は、学生や民間の技術者に木造耐力壁の強さを理解してもらうことであり、また、実大壁の構造実験が行える体験学習の場でもあつた。その20年にわたる教育的効果が日を並べて設置し、双方の壁造住宅(在来軸組工法)の耐力を壁ジャパンカップで競化への技術開発を促そうとした。参加チームは、木造建築学会を経て2003年ものづくり大学、11年よ

り現職。専門は木質構造、木造建築物の耐久性

小野 泰 建設学科教授



木造壁の綱引き大会

おの・やすし 関東学院大学大学院工学系研究科建築学科
専攻修了(工学修士)。(公財)日本住宅・木材技術センター試験研究所を経て2003年ものづくり大学、11年より現職。専門は木質構造、木造建築物の耐久性

監督、大工職人、木材問屋、加する学生たちの協力は欠かせないものであった。本大会で好成績を収めるには、木の材料特性と接合部の工夫が大事で、强度と粘り強さを兼ね備えた性能が要求される。

「綱引き」による勝負は、壁の変形と丑だバキバキ。メタルジャッキでつないで、震度7の想定で、木造建築学会に認められ、木造耐力壁ジャパンカップ実行委員会の代表4人、19年日本建築学会教育賞(教育貢献)が授与された。大会の開催に当たっては、壁好きな有志が集まって無償で自主的に運営してきたものだが、特に参

りから大人まで多くの人々が経験し、興奮と感動を呼び起

る。

「綱引き」の面白さを

取り入れたイベントが、「木

造壁ジャパンカップ」である。

人間の代わりに2体の木

造の壁(耐力壁)が「綱引

き」をして、強さを競い合う

対戦型のイベントである。参

加者はチームを作り、共通

ルールの下、創意工夫した

真。

本大会は、1995年1月

タートした。ものづくり大学

に発生した兵庫県南部地震

が開学した2001年から

(阪神・淡路大震災)後、木は、本学も競技会場となり、

足元を固定した状態で2体

足元を固定した状態で2体